

博報堂生活総合研究所「時間に関する意識調査」結果発表

生活を「高速化したい」57% vs 「低速化したい」43%

20年前との比較では、「高速派」が激増して「低速派」を凌駕
かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71%で最多

超高齢社会、100年人生、働き方改革、副業、時短商品、ナイトエコノミー、タイムシフト……。最近、話題に上ることが多い、こうしたキーワードに共通するテーマは「時間」。今、時間の使い方が見直され始めているといえます。

このような環境のもと、生活者の意識や欲求はどこに向かおうとしているのでしょうか。博報堂生活総合研究所では、その変化ベクトルを把握すべく、20～69歳の男女に「時間に関する意識調査」を実施しました(調査概要は4ページに記載)。

この調査を20年前(1999年)との比較が可能な時系列質問も含めて分析した結果、生活の高速化欲求が大幅に増加。特に、高速化を牽引する20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみえてきました。

調査結果のポイント

生活行動に関する
速度欲求

2019年、「高速派」(57.4%)が「低速派」(42.6%)を上回る。
20年前との比較では「高速派」が+20.0ポイントの激増で、高低の力関係が逆転。
速度欲求に世代格差あり。下の世代は「高速派」、上の世代は「低速派」。
かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71.3%で最多となっている。

- 生活行動に関する速度欲求をみると、2019年は「高速化したい」が57.4%で「低速化したい」の42.6%を14.8ポイント上回る。
- 速度欲求を20年前と比較すると、「高速派」は1999年 37.4%から2019年 57.4%と+20.0ポイントの激増。20年前、全年代で多数派だった「低速派」を超える結果となった。
- 2019年の速度欲求には世代格差がみられ、20～40代は「高速派」、50～60代は「低速派」が多数派。
- 下の年代で多い「高速派」は20代が71.3%で最多。高速化を牽引している。

時間の使い方
に関する欲求

効率的な時間の使い方に関する欲求(自由時間に予定を入れたい、物事は素早く進めたい、複数のことを同時にこなしたい)は若年ほど高く、20代が最多。

- 時間の使い方に関する欲求をみると、自由時間に予定を入れたい、物事は素早く進めたい、複数のことを同時にこなしたいのいずれの欲求も若年ほどスコアが高い傾向がみられ、20代が最多。
- 時間の使い方について、20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみられた。

[自由時間に予定を入れたい vs 予定を入れたくない]

- 全体では、「自由時間に予定を入れたくない」(58.6%)が「予定を入れたい」(41.4%)を17.2ポイントと大きく上回る。
- しかし、20代のみ欲求の力関係が逆転。「予定を入れたい派」が54.0%で過半数。
- 「予定を入れたい派」は、20代を中心に若年ほど多い結果となった。

[物事は素早く進めたい vs じっくり進めたい]

- 全体では、「物事はじっくり進めたい」が54.0%で「素早く効率的に進めたい」46.0%を8.0ポイント上回る。
- しかし、20代のみ「素早く効率的に」(62.5%)が「じっくり考えて」(37.5%)よりも多く、その差も25.0ポイントと大きい。

[複数のことを同時にこなしたい vs ひとつのことに集中したい]

- 全体・各年代ともに「ひとつのことに集中したい」人が「複数のことを同時にこなしたい」人よりも多い傾向。
- 唯一、20代のみ「ひとつに集中」「複数と同時に」がともに50.0%で、欲求は二分される結果になった。

生活行動に関する
速度欲求

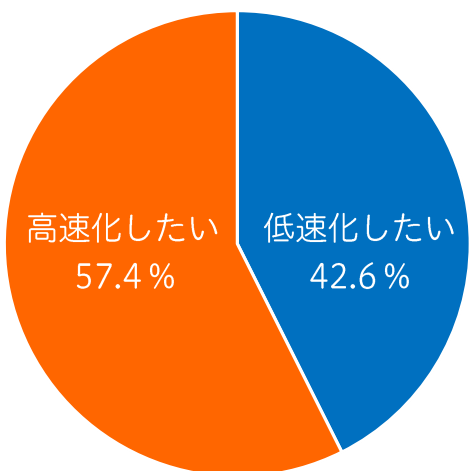
2019年、「高速派」(57.4%)が「低速派」(42.6%)を上回る。
20年前との比較では「高速派」が+20.0ポイントの激増で、高低の力関係が逆転。
速度欲求に世代格差あり。下の世代は「高速派」、上の世代は「低速派」。
かつて「低速派」だった20代も、今や「高速派」が71.3%で最多となっている。

- 生活行動に関する速度欲求をみると、2019年は「高速化したい」が57.4%で「低速化したい」の42.6%を14.8ポイント上回る。
- 速度欲求を20年前と比較すると、「高速派」は1999年37.4%から2019年57.4%と+20.0ポイントの激増。20年前、全年代で多数派だった「低速派」を超える結果となった。
- 2019年の速度欲求には世代格差がみられ、20～40代は「高速派」、50～60代は「低速派」が多数派。
- 下の年代で多い「高速派」は20代が71.3%で最多。高速化を牽引している。

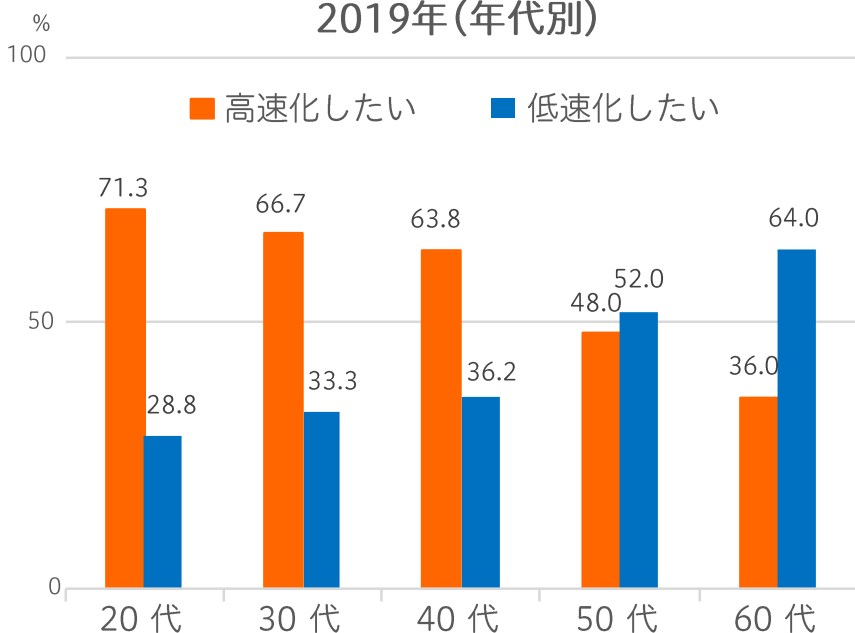
生活行動に関する速度欲求

Q あなたは日頃の行動(仕事や家事、遊びなど)を、今よりスピードアップして高速化したいですか。それとも、ゆっくりと低速化したいですか。(単一回答)

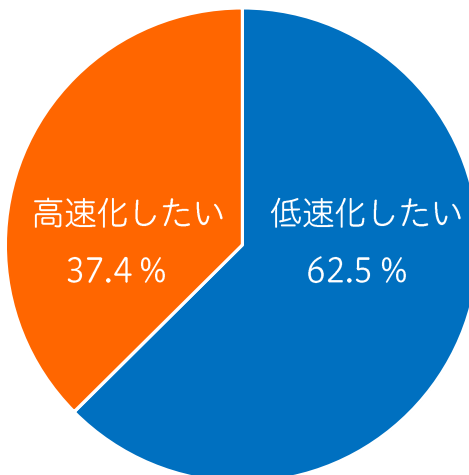
2019年(全体)



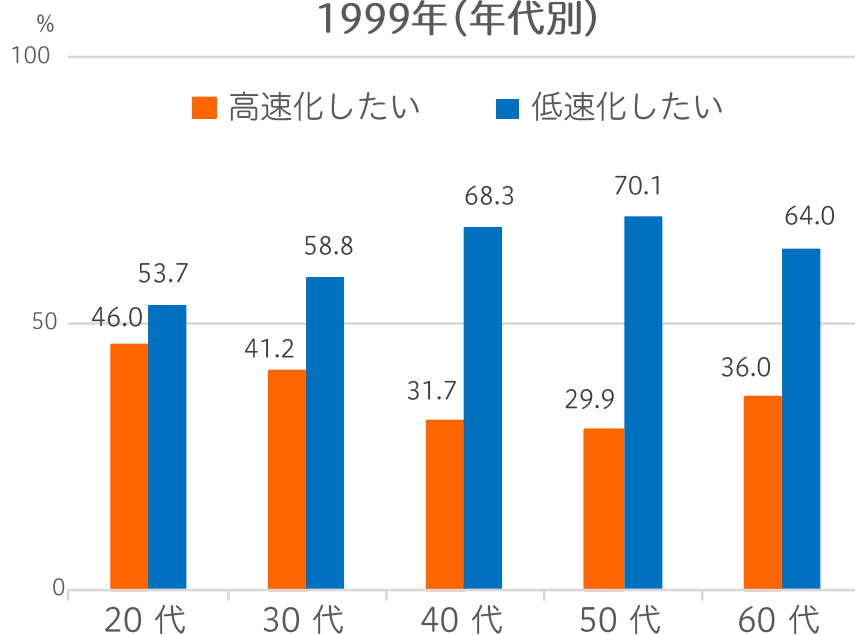
2019年(年代別)



1999年(全体)



1999年(年代別)



時間の使い方に関する欲求

効率的な時間の使い方に関する欲求(自由時間に予定を入れたい、物事は素早く進めたい、複数のことを同時にこなしたい)は若年ほど高く、20代が最多。

- 時間の使い方に関する欲求をみると、自由時間に予定を入れたい、物事は素早く進めたい、複数のことを同時にこなしたいのいずれの欲求も若年ほどスコアが高い傾向がみられ、20代が最多。
- 時間の使い方について、20代を中心に上の年代とは異なる欲求の高まりがみられた。

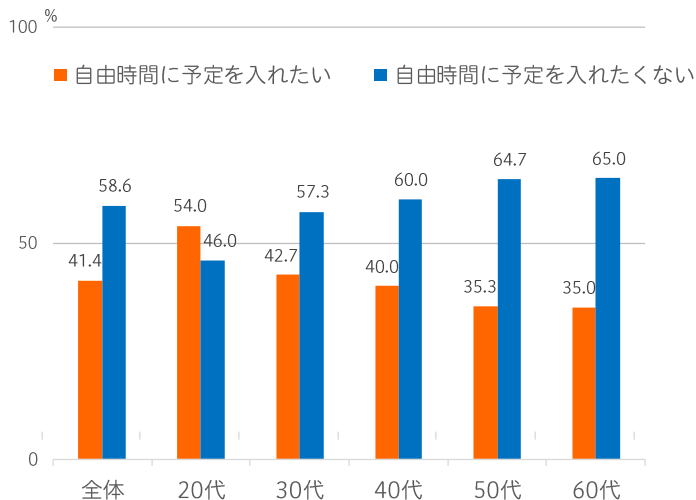
時間の使い方に関する欲求



時間の使い方に関する各項目について、今後のあなたの欲求はどちらに近いですか。それぞれの項目ごとにお答えください。(各、単一回答)

[自由時間に予定を入れたい vs 予定を入れたくない]

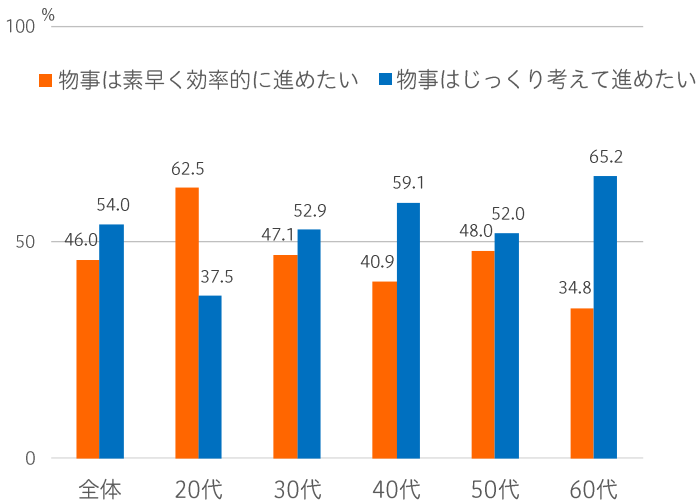
- 全体では、「自由時間に予定を入れたくない」(58.6%)が「予定を入れたい」(41.4%)を17.2ポイントと大きく上回る。
- しかし、20代のみ欲求の力関係が逆転。「予定を入れたい派」が54.0%で過半数。
- 「予定を入れたい派」は、20代を中心に若年ほど多い結果となった。



博報堂生活総合研究所 時間に関する意識調査[全国]

[物事は素早く進めたい vs じっくり進めたい]

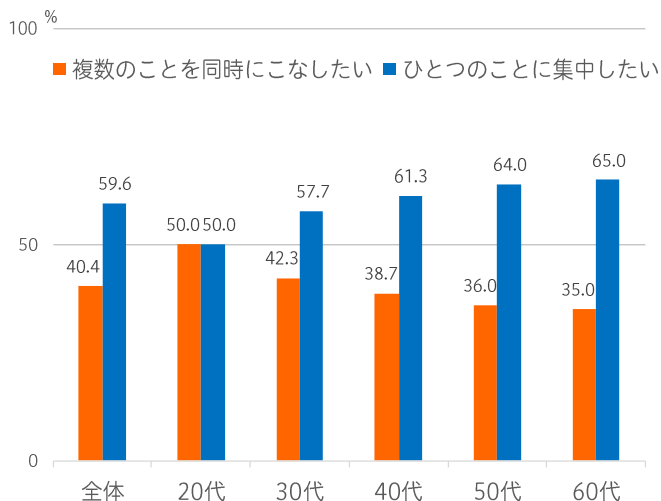
- 全体では、「物事はじっくり進めたい」が54.0%で「素早く効率的に進めたい」46.0%を8ポイント上回る。
- しかし、20代のみ「素早く効率的に」(62.5%)が「じっくり考えて」(37.5%)よりも多く、その差も25.0ポイントと大きい。



博報堂生活総合研究所 時間に関する意識調査[首都圏](2019年)

[複数のことを同時にこなしたい vs ひとつのことに集中したい]

- 全体・各年代ともに「ひとつのことに集中したい」人が「複数のことを同時にこなしたい」人よりも多い傾向。(全体:「ひとつに集中」59.6%、「複数を同時に」40.4%)
- 唯一、20代のみ「ひとつに集中」「複数を同時に」がともに50.0%で、欲求は二分される結果となった。



博報堂生活総合研究所 時間に関する意識調査[全国]

時間に関する意識調査[首都圏]

(2019年)

調査地域 首都圏40km圏
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 500人
調査時期 2019年9月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(1999年)

調査地域 首都圏40km圏
調査手法 訪問留置調査
調査対象 20～69歳の男女 1,500人
調査時期 1999年1月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 東京サーベイ・リサーチ
(現.株式会社 H.M.マーケティングリサーチ)

※2019年と1999年で、調査手法と対象者人数が異なることに、ご注意ください。

時間に関する意識調査[全国]

調査地域 全国
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 1,500人
調査時期 2019年9月
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ